

将来に向けた財政運営について

事業を進めるに当たっては、次の世代につけ回すことのないよう、堅実な財政運営を図ることが重要です。これまでの行財政改革の取り組みによって、財政調整基金の積み増しや市債残高の減少などにより、実質公債費比率や将来負担比率の大幅な改善を成し遂げましたが、このような状態を今後も維持していくことは容易ではありません。

～厳しさを増す状況～

- 財政調整基金が9年ぶりに減少する見込み
- 定員適正化計画に基づく職員数の削減が達成され、さらなる人件費の削減は容易ではない
- 社会保障関係経費の増加
- 大型プロジェクト事業の市債償還が本格化
- 普通交付税における合併算定替え特例措置の猶予期間の終了
- 税制改正による法人税率の引き下げ など

このような状況を踏まえ、中長期的な視点で見ると、平成28年度が本市の**財政構造の転換点**になると考えられます。

そこで、今後の公債費の増加に備え、平成27年度に再開した減債基金の積み立てを今後も継続していく必要があります。**合併特例事業債**は、非常に有利な財源ではありますが、合併後から平成27年度末までの**発行累計額は約335億円**と見込んでおり、平成28年度は**約79億円**の発行を予定しています。平成32年度までの発行可能期間を見据え、今後進めていくべき事業を見極め、効果的に活用していかねばなりません。

このような中、平成27年度に策定した**津市行政経営計画**は、限られた経営資源を効果的に活用し、新たな価値を生み出す「創出による経営」への転換という、これからの新たな行政経営の姿を示し、それを進めていこうとするものです。また、平成28年度に策定する**津市公共施設等総合管理計画**についても、将来にわたる堅実な財政運営を念頭に置いた、これからの公共施設の在り方を示す計画としていきます。

平成28年度予算

平成28年度予算は、合併後10年間の取り組みを踏まえ、これからの10年に向けて、本市が「今やるべきこと」を確実にやり遂げることができるよう、新たな事業に取り組む「**新津市 新展開予算**」とし、一般会計当初予算額は、平成27年度と比べ2.0%減の**1,136億円**としました。

◆編成のポイント

【歳出】 普通建設事業費は、前年度比19.8%減の170億4千万円とし、(仮称)津市久居ホールや産業・スポーツセンター、(仮称)津市応急クリニックおよび教育委員会庁舎の施設整備費などに係る経費を計上しました。

【歳入】 市税は景気動向・税制改正の影響などにより、前年度比1.0%減の390億1千万円、地方交付税は地方財政計画を踏まえ、前年度比1.1%減の180億円、市債は4大プロジェクト事業の一部完了による発行額の減により、前年度比19.1%減の133億6千万円をそれぞれ見込んでいます。また、財政調整基金約98億5千万円を繰り入れ、有効に活用することにより予算編成をしています。

新たなまちづくりをスタート

平成28年度は、次の10年、さらにはもっと先の津市の姿をしっかりとイメージしながら、新たなまちづくりをスタートしていかねばなりません。そして、持続可能なまちづくりを着実に進めていくためには、明確な目的をもって仕事をしていかねばなりません。

- 地方創生に向けた取り組みの展開
- 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定
- 次期総合計画・都市マスタープラン策定



風格ある県都津市の実現に向けて

今、私たちは、時代の転換点に立ち、明るい未来のために、持てるかぎりの知恵を絞り、今の子どもたちにとって最良の結果となるよう、物事を選択していかねばなりません。そして、「今やるべきこと」を、市政を預かる私が、迷うことなく実行することは、市民からの付託であるとともに、未来の市民への責任でもあります。

その責任を果たすべく、市民の皆さまの暮らしがより豊かになるようなまちづくりを進め、この津市が堂々たる県都として、風格ある都市となるよう、市役所一丸となって市政を推進します。